



赤い羽根「災害ボランティア・NPO 活動サポート募金・九州」（ボラサポ・九州）  
第2回助成決定にあたって

## はじめに

11月17日、「ボラサポ・九州」の第2回目の助成先を決める運営・審査委員会（以下委員会）を開催し、44件、合計6,891万円の助成を決定いたしました。

被災地では、仮設住宅4,303戸が完成し、各市町村で入居希望者4,069世帯が手続きを終えています。また、自治体が提供する民間の賃貸住宅を仮の住まいとする、いわゆる「みなし仮設」についても、11月15日現在、11,525戸の借り上げが決定し入居が始まっています。

地震発生から7か月が経過し、被災者に対する支援内容は緊急救援から、仮設住宅等に居住する高齢者をはじめとした生活支援に転換しつつあります。一方で、熊本市、益城町をはじめとする15市町村で、被災した方々が、生活再建に向けて安心した日常生活を送れるよう、見守りや健康・生活支援、地域交流の促進などの総合的な支援を行う「地域支え合いセンター」の活動が始まっていて、被災市町村内においても、がれきや家屋片付けなど発災初期のボランティア活動と生活支援に関わる活動、さらにはコミュニティ復興に向けた活動が混在した状況にあります。

第2次募集では、応募件数が第1次と比べ、約4割減少しました。現地での活動そのものが減少していることもありますが、今後事務局では広報・周知を充実させていくこととしています。支援に入る団体が、他の団体との連携や活動を広げる視点をもって、より多く本助成に応募いただくことを期待します。

## 1. 第2次応募状況と助成決定状況

9月3日から受付を開始した第2回目の助成公募では、59件、合計1億1,807万円の応募をいただきました。応募の内訳は次のとおりです。

- |                           |               |
|---------------------------|---------------|
| ・「短期プログラム」（活動日数14日未満）     | 15件・516万円     |
| ・「中長期A部門」（活動日数14日以上30日未満） | 3件・187万円      |
| ・「中長期B部門」（活動日数30日以上）      | 41件・1億1,104万円 |

今回の応募では以下の傾向が読み取れました。

活動地域は、全体の応募の約24%が益城町、約18%が西原村、約14%が熊本市となっており、次いで南阿蘇村、御船町となっています。

活動内容で最も多かったのが心のケアで15.3%、次いでリフレッシュ・文化・スポーツ活動等が12.5%、片付け・がれき撤去8.3%、コミュニティ再生活動6.9%、炊き出し6.9%と続きました。

前回最も多かった子どもの支援は、14.3%から5.6%に減り、生活支援活動やコミュニティの再構築の活動と、緊急救援活動が混在していることが見受けられました。

活動団体の所在地は、熊本県内の団体が35.1%、次いで、東京都が17.5%でしたが、九州として福岡県、宮崎県、鹿児島県からの応募が14.1%あり、被災地、あるいは被災地に隣接した地域からの支援が約5割を占めました。

## 2. 選考にあたっての考え方

選考では、応募要項に記載した「選考にあたって重視する点」として、「目標や問題意識が明確になっているか」、「さまざまな人たちの参加と協力が得られているか」、「被災した人たち・被災地の住民自身が行う活動であること」、「県外の団体においては被災地（避難者）団体への引継ぎ方針が明確であること」などに基づいて審査を進めました。

また、残念ながら今回の選考で助成を見送った案件がありました。自らがしたいことが中心となった活動も見受けられ、刻々と変わる被災地の状況や、被災者のニーズを見据え、フェーズが変わりつつある中での生活に密着した活動、あるいは被災した地域の状況に寄り添った活動であってほしいという意見が多く出されました。

この先、被災した地域では住民の支え合いによる活動の重要性が増すことから、「被災地域に資源を残すことを意識し工夫しているか」、「支援により住民活動をどう生み出すか」を意識した取り組みも求められます。

## 3. 今後の予定について

第3回の応募要項は、一部見直しをしたうえで1月上旬に中央共同募金会ホームページで公表し、応募受付は1月中旬を予定しています。

助成対象となるのは、第二次応募受付の締め切り日の翌日（9月24日）以降の活動です。詳しくは応募要項をご覧ください。（中央共同募金会ホームページ：<http://www.akaihane.or.jp/>）

災害は不幸な出来事ですが、災害の起こった地域では、障がいのある人、ひとり暮らしの高齢者、山間地で孤立してしまっている人、認知症の人など、これまで見えにくかった地域の課題が、見えるようになる機会でもあります。これまで多くの団体が、災害を契機に地域に根差した活動へと取り組んできており、今後熊本においても重層的な活動が広がっていくことを期待しています。

最後となりましたが、4月14日の発災直後より全国の個人・企業の皆さまより多くのご寄付をいただいておりますことに深く感謝いたします。（寄付額：478,767,854円 10月30日現在）

また、今回助成が決定した団体の皆さまにおかれては、寄付者の方々から託された貴重な財源による助成であることを理解いただき、この助成により、被災された人々が一刻も早く日常を取り戻せるよう、有意義な活動を展開されるよう望みます。

赤い羽根「災害ボランティア・NPO 活動サポート募金・九州」  
運営・審査委員会 委員長 山崎美貴子